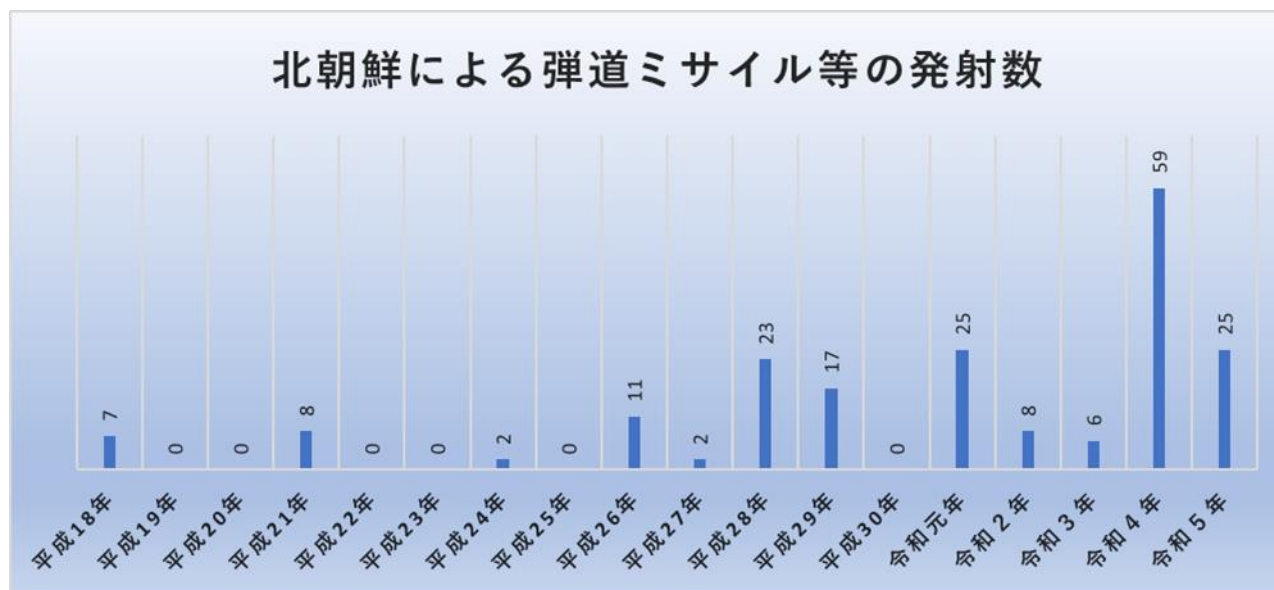


北朝鮮によるミサイルの発射に関する対応

経過等

1 これまでの発射回数

北朝鮮による弾道ミサイル等の発射は、近年、その頻度が増しており、令和5年は計25発と過去最多の令和4年の59発に次ぐ過去2番目タイの発射回数となっている。



参考：防衛省資料等

2 日本上空を通過した経過

No.	年月日	飛翔エリア
1	平成10年8月31日	秋田県沖
2	平成21年4月5日	秋田県・岩手県
3	平成24年12月12日	沖縄県沖
4	平成28年2月7日	沖縄県
5	平成29年8月29日	北海道沖
6	平成29年9月15日	北海道沖
7	令和4年10月4日	北海道・青森県

※平成24年以降の発射では、対象地域で全国瞬時警報システム（Jアラート）が鳴動している。

令和5年度の帯広市の対応について

1 4月13日のJアラートの対応

(1) 地域防災無線での発信

- ①市立小中高校の非常放送設備での放送
- ②緊急情報一斉伝達システム登録者への配信（電話、ファクス、メール）
- ③緊急情報一斉伝達システムでの発信（市HPへの緊急情報掲載、X（旧Twitter）、Facebookで発信）

(2) 帯広消防署による周知

消防署所に設置しているスピーカーを通じ、サイレン吹鳴と職員によるメッセージ音読

(3) その他

北朝鮮のミサイル発射に伴う帯広市でのJアラートの対応は4回目。

2 4月13日以降の対応

(1) 防災出前講座等で基本的な対応を周知・啓発

災害対応の避難行動と同様に、「危険から遠ざかる」「その場でとれる最善の行動をとる」ことなどが大切と説明し、Jアラートを確実に受信できるよう、携帯電話やスマートフォンの「緊急速報」の通知設定を「ON」にするよう周知に努めている。

(2) 弾道ミサイル発射を想定した国民保護訓練の視察

令和5年8月29日（火）に網走市で実施された内閣官房、北海道、同市による訓練を視察。「初動対処訓練」として、Jアラートが発出された際の市役所防災部門の情報収集、関係機関との連絡等の訓練が網走市役所で、「住民避難訓練」として市内中学校でそれぞれ訓練が行われ、対応の確認や訓練の展開方法等を確認した。

今後の対応について

相次ぐ北朝鮮による弾道ミサイルの発射を受け、市民の間にも国民保護事案に関する関心が高まっていることから、引き続き、出前講座等様々な機会を通じて国民保護及び帯広市国民保護計画に関する周知・啓発活動を行うと同時に、防災情報も含めた緊急情報の適切な発信のための体制維持、より多くの市民が緊急情報を適時適切に受信できるよう、Jアラートを始めとした緊急情報の収集手段の周知と各種システム・サービス等への登録促進を図る。